

概要版

開成町環境基本計画

2025-2032

いつまでも うるおいとせせらぎのあるまち かいせい
～ 恵み豊かな環境を感じる 持続可能な未来へ ～



令和7年3月

開成町

1 開成町環境基本計画とは？

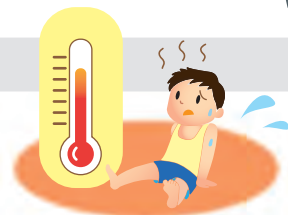
開成町の環境を守るための計画です。



● 開成町を取り巻く環境問題

開成町は豊かな水に恵まれたお米の産地として知られてきましたが、経済発展に伴って自然が減少しました。さらに最近では、気候変動やプラスチックごみなど地球規模の環境問題に直面し、猛暑や豪雨による自然災害による被害も増えています。

このような環境問題を解決するため、私たちは限りある資源を大切にしながら、より良い環境を未来へつなぐために、一人ひとりができることに取り組んでいく必要があります。



● 町・町民・事業者・滞在者の行動指針

「開成町環境基本計画」(本計画と呼ぶ。)は、町・町民・事業者・滞在者のみんなが協力して、環境問題に取り組むための計画です。地球全体の環境を守りながら、開成町が発展していくにはどうすればいいか、長期的な目標や町・町民・事業者がそれぞれやるべきことを決めています。この計画を参考にして、みんなで力を合わせて環境を守っていきましょう。



持続可能な開成町にしていくために必要なんだね。

● 8 年間の計画

本計画の期間は、2025(令和7)年度から2032(令和14)年度までの8年間とします。

2025 年度
(令和 7 年度)

2032 年度
(令和 14 年度)

今回の環境基本計画
2025 ~ 2032

2025(令和7年)年3月策定

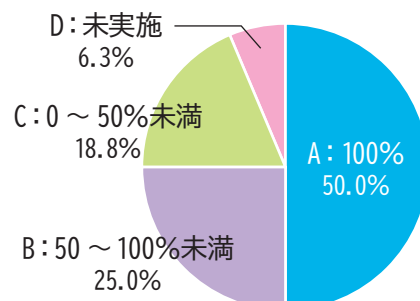
「開成町環境基本計画」は、「開成町環境基本条例」の第8条に基づく計画です。



これまでの計画の評価は？

2017(平成29)年3月に策定した「開成町環境基本計画2017～2024」では、具体的な16の達成目標を設定しました。2023(令和5)年度の実績値では、最終年度の目標値に対して目標達成率が50%となりました。

その要因としては、町から町民や事業者への環境施策に対する働きかけが十分ではなかったことや、社会情勢の変化によるものと考えられます。



2 環境についての動向は？

世界や日本の動向にも注目しましょう。



持続可能な社会



SDGs は、2030 (令和 12) 年までに世界が目指す「持続可能な社会」の実現に向けた目標であり、私たち一人ひとりが積極的に行動することが求められています。また、日本では、環境を守りながらみんなが幸せに暮らせる「ウェルビーイング」を目指した「第六次環境基本計画」も策定されました。

「ウェディングケーキ」と呼ばれる SDGs の関係図。
生物圏(自然資本)なくして社会や経済が成り立たないことを示しています。



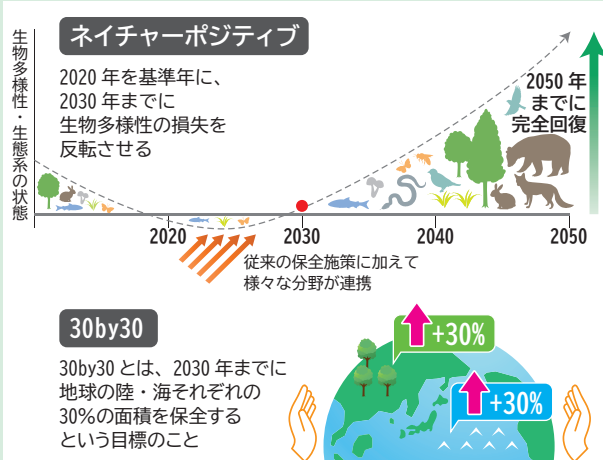
SDGs ウェディングケーキモデル

【資料: SDGs "wedding cake" illustration presented by Johan Rockström and Pavan Sukhdev】

自然共生社会



現在、地球上では多くの生物が絶滅の危機にあります。そこで、世界では 2030 (令和 12) 年までに「自然を回復させる」(ネイチャーポジティブ)という目標を立て、陸と海の 30%以上を保護区にする「30by30」などが決まりました。日本でも、自然が豊かな場所を「自然共生サイト」として認定・保全していく仕組みがスタートしました。

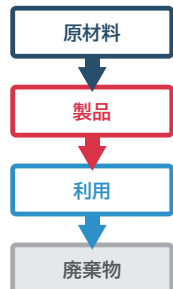


循環型社会

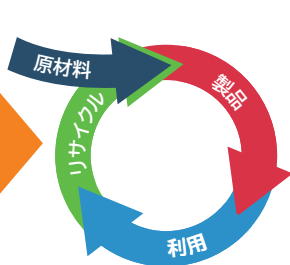


ものをできるだけ長く使い、ごみを減らして、資源を循環させていくことが重要です。この考え方を「循環経済(サーキュラーエコノミー)」といいます。最近では、食べ物を無駄にしない「食品ロス」の削減や、プラスチックごみを減らしていくための法律などもできましたが、これらは循環経済の実現を目指したものです。

リニアエコノミー
(線型経済)

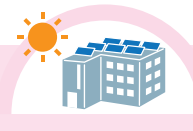


サーキュラーエコノミー
(循環経済)

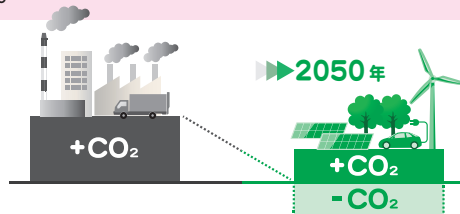


【資料: 「A Circular Economy in the Netherlands by 2050」(2016)より作成】

脱炭素社会



世界では「パリ協定」で温暖化防止のルールが決まり、日本も 2050 年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の実現を目標に掲げました。また、すでに影響が出始めている気候変動への「適応策」も同時に進めています。



開成町でも、2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指しています。



3 開成町の環境の特徴は？

開成町の環境のすごいところは
どんなことかな？



開成町の環境には、どんな特徴があるのでしょうか。
開成町のいいところを探してみましょう。



1 まとまった水田地帯

本町には、まとまった水田地帯があり、米の生産だけではなく、のどかな景観、生物のすみか、洪水緩和、気温調節などにも役立っています。



2 あじさいの里

あじさいの里には5,000株のあじさいが植えられており、6月には多くの観光客が訪れています。



3 ホタルの分布

本町には水田や水路などにゲンジボタルやヘイケボタルが生息しており、初夏になると乱舞が楽しめます。



4 少ないごみ排出量

2022(令和4)年度の町民1人1日当たりのごみ排出量は798g/人・日であり、国880g/人・日、神奈川県801g/人・日より少なくなっています



5 グリーンリサイクルセンター

開成町グリーンリサイクルセンターでは、回収した剪定枝のチップ化や給食から出る生ごみと剪定枝を堆肥化して販売しています。



6 町民参加の美化活動

本町では毎年、「かいせいクリーンデー」による町民参加の美化活動が行われています。



7 豊富な水資源とせせらぎ

本町は、良質で豊富な地下水に恵まれているほか、町全体にきれいな水の流れるせせらぎがあります。



8 ゼロカーボンシティを表明

2020(令和2)年3月に本町は、2050(令和32)年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを実現する「ゼロカーボンシティ」を表明しました。



9 日本初のZEB認証の庁舎

開成町役場は、太陽光発電や工夫された設計でエネルギー消費を減らし、環境にやさしい建物として、庁舎としては日本初のZEB認証を取得しました。



10 農業用水の水力発電

あじさい公園には、農業用水を活用した小水力発電が設置されています。発電した電気は、隣接するあじさい公園灯に使用しています。



4 開成町の環境の課題は？

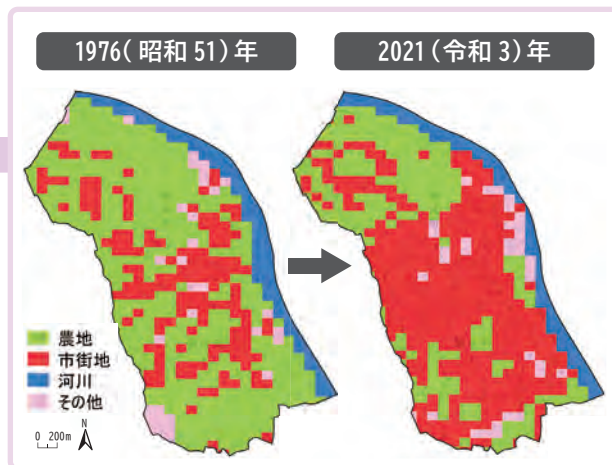
市街地がものすごく
拡大しているね。



開成町の環境にもいくつかの課題があります。
課題の解決に向けて、みんなで取り組んでいく
ことが求められています。

1 農地の減少と市街地の拡大

本町の土地利用をみると、かつては町全体に分布していた農地が減少し、市街地に変化していることがわかります。今後のまちづくりにおいて、自然環境の保全と開発のバランスを図っていく必要があります。



2 貴重な生物の減少

ドジョウやハイケボタル、カヤネズミなど絶滅のおそれのある種については、今後の保全が必要です。



3 外来種の分布拡大

町内では、アレチウリ、ガビチョウ、アカボシゴマダラなどの特定外来生物が確認されており、今後の拡大防止が必要です。



4 もえるごみの1/3を占める生ごみ

本町のもえるごみは、その1/3が生ごみです。生ごみを堆肥化などにより減量することで、ごみを減らしていく必要があります。



5 リユースの推進

ごみとして処分する前に使えるものをリユース（再使用）することで、ごみを減らしていく必要があります。



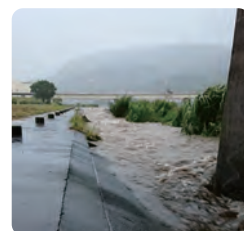
6 ゼロカーボンシティの実現

2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、省エネルギー化の推進や再生可能エネルギーの普及が必要です。



7 気候変動への適応

気候変動により、本町でも自然災害の発生、熱中症の増加、農業への影響などが懸念されるため、気候変動による影響を少なくする取組が必要です。



8 環境教育のさらなる充実

本町は県内1位の人口増加率であり、今後は子どもを含む環境教育をさらに充実させていく必要があります。



9 環境基本計画の普及啓発

開成町環境基本計画を町民・事業者にも普及啓発し、みんなで開成町の環境を守っていく必要があります。



5 どんな取組をするの？

まずは自分ができることから始めてみよう。



まちの将来像

いつまでも うるおいとせせらぎのあるまち かいせい
～ 恵み豊かな環境を感じる 持続可能な未来へ ～



基本目標 1



自然と共生するまち

農地のほか、街路樹や公園緑地、屋敷林などの身近な緑、河川・水路など、豊かな緑と水辺が本町の特徴となっています。今後も都市化が進むなかで、緑や水辺を守りながら、自然と共生するまちを目指します。

【取組の方針】

- 1-1 身近な緑を保全・創出しよう
- 1-2 水辺の環境や多様な生物を守ろう

【環境指標】(抜粋)

	現状 2023年度	目標 2032年度
公園・道路緑地ボランティア登録数	42団体	58団体
あじさいの里親登録数	38団体	40団体

町民・事業者の皆さんの取組事例



生物が生息できる
水田づくり

敷地の緑化

自然共生サイト
への登録

基本目標 2



資源が循環するまち

食品ロスやプラスチックごみを減らすなど、4R*を進めることで、資源が循環するごみの少ないまち、ごみの散乱のないきれいなまちを目指します。

*4Rとは、①Refuse：ごみになるものを買わない・使わない、②Reduce：ごみなるものを減らす、③Reuse：ものを繰り返し使う、④Recycle：資源として有効に活用する の4つを示す。

【取組の方針】

- 2-1 ごみを減らそう
- 2-2 まちをきれいにしよう

【環境指標】(抜粋)

	現状 2023年度	目標 2032年度
家庭系ごみ住民1人1日当たりのごみの排出量	624g/人・日	608g/人・日
ごみの資源化率	32%	34%
美化活動(かいせいクリーンデー等)への参加者数	9,492人/年	10,500人/年

町民・事業者の皆さんの取組事例



ごみの出し方・分別
ルールの徹底

食品ロスの
削減

地域の美化活動
への参加



基本目標 3



安全安心に暮らせる環境のまち

私たちが健康で文化的な生活をするため、水や空気がきれいで、嫌な音や振動、臭いがせず、化学物質等による汚染がない環境が重要です。そのため、日常生活や事業活動による環境への負荷を低減し、安全安心に暮らせるまちを目指します。

【取組の方針】

- 3-1 豊かできれいな水を守ろう
- 3-2 周辺の生活環境に配慮しよう

【環境指標】(抜粋)	現状 2023年度	目標 2032年度
公害発生件数	0件/年	0件/年

町民・事業者の皆さんの取組事例



基本目標 4



脱炭素を実現するまち

世界や国の目標と合わせ、2050年カーボンニュートラル実現のため、温室効果ガス排出量を削減します。また、猛暑や自然災害の発生など気候変動による影響が顕在化しているため、進行する気候変動に適応する取組を並行して推進します。

※「開成町地球温暖化対策実行計画」における現状値と目標

【取組の方針】

- 4-1 地球温暖化を防止しよう
- 4-2 気候変動に適応しよう

【環境指標】(抜粋)	現状 2023年度	目標 2032年度
温室効果ガス排出量の削減率(町域)(2013年度比)	-11.0%※ (2019年度)	-46%※ (2030年度)
ゼロカーボンシティ創成パートナー企業数(累計)	21事業所※ (2024年度)	28事業所
町補助金を活用した ZEH 化及び家庭における太陽光発電設備の導入件数(累計)	74件	245件

町民・事業者の皆さんの取組事例



基本目標 5



みんなで環境を守るまち

本町の豊かな環境を未来へ残していくためには、町民一人ひとりが環境について関心を持ち、環境保全に向けて取り組んでいくことが必要です。町・町民・事業者が協働して、環境教育や環境保全活動を拡大していくことで、みんなで環境を守るまちを目指します。

【取組の方針】

- 5-1 環境について学ぼう
- 5-2 みんなで環境保全について取り組もう

【環境指標】(抜粋)	現状 2023年度	目標 2032年度
環境学習会等の開催回数	5回/年	5回/年
環境フェア、町民環境調査など、町が開催する事業への参加者数	54人/年	100人/年

町民・事業者の皆さんの取組事例



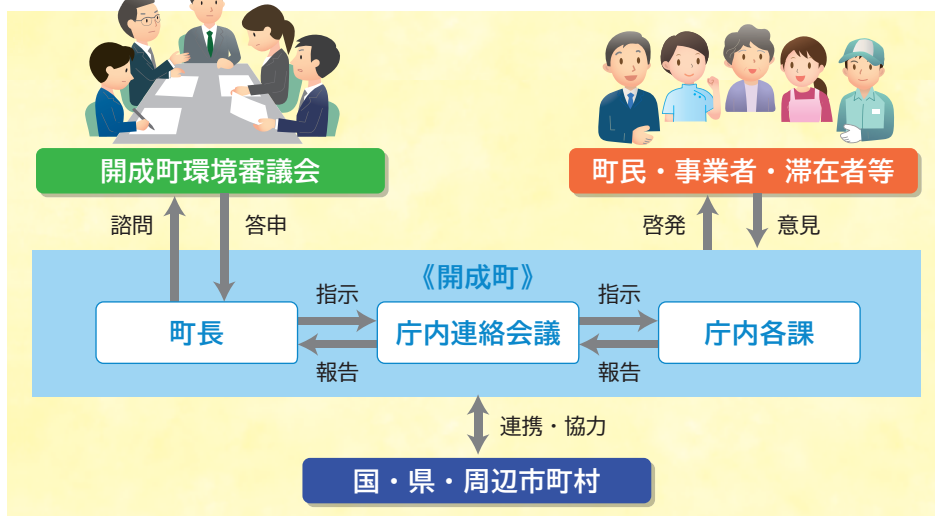
6 計画の進め方は？

計画はつくった後が
大切なんだよね。



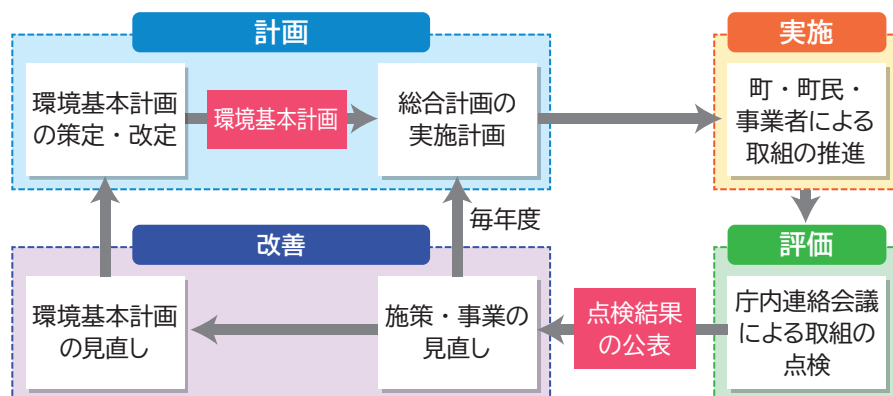
● 計画の推進体制

本計画を推進していくため、町民・事業者・滞在者等の各主体、庁内連絡会議や開成町環境審議会などの組織により、計画を推進します。



● 計画の進行管理

本計画では、「計画」「実施」「評価」「改善」による継続的かつ確実な進行管理を実施します。



● 環境に関する情報の周知

計画の推進のためには、町の実施だけでなく、町民・事業者・滞在者等の協力や自主的な環境への取組が不可欠であり、環境に関する様々な情報を周知することが必要です。

- ・町のホームページで環境基本計画の公開
- ・「広報かいせい」による環境情報の発信
- ・町のホームページや SNS の活用



開成町環境基本計画 2025-2032 (令和7年3月)

〒258-8502 神奈川県足柄上郡開成町延沢 773

開成町環境課 TEL 0465-84-0314 FAX 0465-82-5234

URL <https://www.town.kaisei.kanagawa.jp/>

計画書の本編は
町のホームページで
ご覧ください。

